

High Throughput Crystallography という言葉が事あるごとに使われるようになってきました。特に Syrrx 社や SGX 社等のベンチャーでは一日に数千から数万もの結晶化条件を探索しているなどという情報を耳にすると、蛋白質結晶学も大きな転換期を迎えつつあるのだと感じざるを得ません。ビデオを見ると、実験室というよりは本当に工場のような印象を受けました。最近では、結晶化の自動化装置の紹介も盛んに行なわれるようになりまし、またデータ収集や構造解析ソフトの自動化もますます進められていくことと思います。結晶化に関して言えば、様々なストラテジーがあるでしょうが、最近では市販の結晶化スクリーニング試薬を使用する人が多いのではないのでしょうか。結晶化自動化装置で手軽に結晶化を仕掛けられるようになれば、スクリーニング試薬の質がより重要になってくるでしょう。その意味で、先日の ISDSB2003 で R. Stevens の「少しハンプトンの試薬に頼りすぎている懸念がある」という言葉は、印象に残りました。

今後とも構造生物の一層のご愛読をお願い申し上げます。

(H. K.)

#### 編集委員会

委員長	栗原 宏之 (山之内製薬)	kurihara@yamanouchi.co.jp
委員	曾我部 智 (中外製薬)	sogabests@chugai-pharm.co.jp
委員	幾田 まり (万有製薬)	ikutamr@banyu.co.jp
顧問	田仲 可昌 (筑波大学)	ytanaka@sakura.cc.tsukuba.ac.jp